

1-10 哲学

研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野においては、古代ギリシアに始まり、主として西欧世界に受け継がれて今日に至っている西洋哲学の営みを引継ぎ、さらに推進することが目指されている。そこで研究は、先人たちの思想的遺産を研究対象とする歴史的考察と、哲学の問題そのものと対峙する体系的考察とを車の両輪として進められる。スタッフの専門分野は古代中世哲学、近現代哲学、科学哲学、生命環境倫理学（科学技術倫理／臨床倫理学を含む）などであり、講義や研究演習を通して、原典（英語、独語、仏語、ギリシア語、ラテン語に互る）の厳密な読解と、それに基づく哲学的探究を実践すると共に、研究能力を身につける訓練を行っている。学生の指導にあたっては、自ら選んだテーマをめぐって、先人と対話すべく原典に向かい、また先行研究を押えた上で、自らの思索を展開することにとくに留意している。なお、社会人コースの学生は、社会の現場において抱くようになった問題意識に基づくテーマを選ぶこともできるようにしている。

本専攻分野の特色は、第一に 1922 年（大正 11 年）創設以来の伝統ある学問活動の蓄積である。高橋里美をはじめとして、日本の哲学研究をリーダーする研究者たちが歴代の教員となり、現象学をはじめとして顕著な業績を挙げた研究者を輩出してきた。このような伝統を受け継ぎつつ、哲学研究を国際的な場でさらに推進しようとしている。第二に、以上に加えて近年は、現代社会が抱える諸問題に哲学の視点から向かう試みに意欲的に取り組んでいる点が、特色として挙げられる。このため、倫理学専攻分野と連携しつつ、科学研究費、受託研究費（日本学術振興会 人文・社会科学振興研究事業）を積極的に導入し、一連の研究プロジェクト全体を、「人間の 21 世紀的 Well-Being 研究プロジェクト」として総括して、文学研究科の主要研究プロジェクトの一つとして推進してきた。その後「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」（科学研究費補助金基盤研究（A））をテーマに、科学技術倫理を中心にしたアクチュアルな課題と取り組み、現在は「科学技術における討議倫理のモデル構築」（科学研究費補助金基盤研究（B））のテーマのもと科学技術者及びその批判者をも交えて「討議倫理」の実践的問題を課題としている。また 2008 年度からは、理学研究科のグローバル COE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」に講座として関わり、事業の展開に積極的に協力している。

I 組織

1 教員数（2011 年 9 月現在）

教授：2

准教授：3

講師：0

助教：1

教授：野家 啓一 座小田豊

准教授：直江清隆 荻原理 原 塑

助教：伊藤周二

なお、2007年3月末をもって清水教授は他大学に転出した。

2 在学生数（2011年9月現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生	科目等履修生
39	0	12	15	0	0

3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)
07	13	5	2
08	11	2	0
09	13	1	2
10	2	0	0
11	9	1	1
計	48	8	5

* 2011年度は、9月末までの数字

過去5年間の組織としての研究・教育活動（2007～2010年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	1	2	3
08	2	0	2
09	2	0	2
10	0	0	0
11	1	0	1
計	6	2	8

* 2011年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

伊藤周史、2007年、『絵画の視覚とその存在論的思考 現象学的像理論とメルロ＝ポンティにおける可視性の哲学』

審査委員：教授・野家啓一（主査） 教授・座小田豊、准教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理

滝口清栄、2007年、『ヘーゲル「法（権利）の哲学」 形成と展開』

審査委員：教授・座小田豊（主査） 教授・野家啓一、准教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆

野家伸也、2007年、『自然化された現象学 知の再統合のための試論』

審査委員：教授・座小田豊（主査） 教授・森本浩一、准教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆

山田圭一、2008年、『知識・懐疑・確実性 - ウィトゲンシュタイン最後の思考 -』

審査委員：教授・野家啓一（主査） 教授・座小田豊、教授・森本浩一、准教授・直江清隆、准教授・荻原理

井頭昌彦、2008年度、『多元論的自然主義の可能性』

審査委員：教授・野家啓一（主査） 教授・座小田豊、教授・戸島貴代志、教授・森本浩一、准教授・直江清隆、准教授・荻原理

信太光郎、2009年度、『ハイデガー思想における生命論的思考の解明 死すべきものの自由をめぐる』

審査委員：教授・座小田豊（主査） 教授・野家啓一、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、

千田芳樹、2009年、『E・カッシーラーの「文化哲学」研究——神話論的視点から——』

審査委員：教授・座小田豊（主査） 教授・野家啓一、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理

佐藤優子、2011年、『ハイデガーと「神」の問題 『哲学への寄与』を出発点として』

審査委員：教授・座小田豊（主査） 教授・野家啓一、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、准教授・原 塑

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
----	------------------	----------------	--------------	-----	---

07	4	0	1	4	9
08	8	3	1	3	15
09	3	1	2	2	8
10	2	4	1	1	8
11	3	0	1	1	5
計	20	8	6	11	45

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	0	0	3	1	4
08	6	5	5	1	17
09	6	7	3	0	16
10	0	4	1	0	5
11	6	0	0	0	6
計	18	16	12	2	48

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

阿部ふく子「思弁的思考と弁証法——思弁哲学の困難と可能性をめぐるヘーゲルの視点」、『東北哲学会年報』、東北哲学会編、第23号、pp.19-32、2007年

阿部ふく子「理性の思弁と脱自——ヘーゲルとシェリングにおける理性の可能性に関する考察——」、『ヘーゲル哲学研究』、日本ヘーゲル学会編、第14号、pp.149-161、2008年

阿部ふく子(訳・解題) F.W.J.シェリング「F.I.ニートハンマー著『現代の教育教授理論における汎愛主義と人文主義の抗争』への批評」、『知のトポス』、新潟大学大学院現代社会文化研究科「世界の視点をめぐる思想史的研究」プロジェクト編、第4号、pp.79-116、2009年

阿部ふく子「哲学の「学習」としての体系——ヘーゲルの教育観と哲学的エンツュクロペディーの関係について——」、『久保陽一編『ヘーゲル体系の見直し』』所収、理想社、pp.101-117、2010年

阿部ふく子「解題：J・G・フィヒテ「シュミット教授によって樹立された体系と知識学との比較」(栗原隆・阿部ふく子訳)、『世界の視点 知のトポス』、新潟

- 大学大学院現代社会文化研究科共同研究プロジェクト「世界の視点をめぐる思想史的研究」新潟大学人文学部哲学・人間学研究会編、第5号、2010年
- 阿部ふく子「思弁哲学の公教性　ヘーゲルの通俗哲学批判とその克服」(発表要旨)『東北哲学会年報』、pp.93-94、2010年
- 阿部ふく子、「哲学と人間形成　ニートハンマーとシェリングの教養形成論をめぐって」、『シェリング年報』、日本シェリング協会編、第19号、2011年
- Fukuko ABE, System als Erlernen der Philosophie: Zum Verhältnis zwischen der Hegelschen Erziehungsanschauung und seiner philosophischen Enzyklopädie, in: Logik und Realität, hrsg. v. Ch. Jamme und Y. Kubo, Wilhelm Fink Verlag, München 2011.
- 阿部ふく子、解題：G・W・F・ヘーゲル「アルプス徒歩旅行についての報告」(加藤尚武・田中純夫・阿部ふく子訳)、『世界の視点 知のトポス』、新潟大学人文学部哲学・人間学研究会編、第6号、pp.126-131、2011年
- 飯野勝己『言語行為と発話解釈　コミュニケーションの哲学に向けて』勁草書房、2007年
- 井頭昌彦、「分析性は理解不可能な概念なのか?」、『哲學』(日本哲学会) 第58号、2007年
- 井頭昌彦、「翻訳/訳者解説(ハンス・ラダー「実験科学における再現と非局所性」)」、『MORALIA』(東北大学倫理学研究会) 第14号、2007年
- 伊藤周史「視覚における根底的思考の経験」、『現象学年報』2006年
- 伊藤周史(翻訳・解題) 劉國英「視覚の狂気——メルロ＝ポンティにおける現象学者としての画家」(Kwok-ying LAU, The Madness of Vision: The Painter as Phenomenologist in Merleau-Ponty) 東北大学哲学研究会雑誌『思索』第40号、2007年
- 伊藤周史(翻訳・解題) J.A.コメニウス『光の道』第8章～第13章(Johannes Amos Comenius, *Dílo Jana Amose Komenského*, vol.14, Academia, Praha, 1974, pp. 279-369 の翻訳と解題) 日本コメニウス研究会雑誌『日本のコメニウス』第18号、2008年
- 遠藤健樹「戦間期シュトラウスにおける「道徳的拘束性」の問題」、『レオ・シュトラウスの哲学とシュトラウス学派政治思想の研究 課題番号 17320022 平成17年度～19年度科学研究補助金(基盤研究(B))研究成果報告書』、2008年3月31日、pp.129-149.

- 遠藤健樹「歴史・自然・政治　一九三〇年代のカール・レーヴィット」、『東北哲学会年報』(東北哲学会) 第25号、2009年
- 遠藤健樹「「共同存在」と「政治的なもの」　カール・レーヴィットによるシュミット批判の帰趨」、『倫理学年報』(日本倫理学会) 第五十九集、2010年。
- 遠藤健樹、「解釈学的な相互承認　レーヴィットにおける共同相互存在論の一帰結」、『思索』第43号、71頁～88頁、2010年。
- 小笠原史樹「神の絶対的能力　トマス哲学の一断面」、『哲学』(日本哲学会) 第57号、2006年
- 梶尾悠史「現象主義を超えて　フッサール現象学における直接知覚の存在論」、『現象学年報』(日本現象学会) 第25号、2009年
- 梶尾悠史「知覚と解釈　フッサール現象学における統握理論をめぐって」、『東北哲学会年報』(東北哲学会) 第26号、2010年
- 梶尾悠史「苦悩の倫理学　死なないでいることの理由」、『第二十五回暁烏敏賞入選論文』(暁烏敏賞事務局) 2009年
- 齋藤直樹、行為の意味についての「表出主義的議論」の妥当性に関する一考察　エアーならびにスティーブソンによる「情動主義」的意味論の検討を介して、『モラリア』第13号、東北大学倫理学研究会編、2006年
- 佐藤駿、「知覚意味のダイクシス」、フッサール研究会、於・関西大学、2007年3月。佐藤駿、「指示と構成」、『思索』40号、2007年。113-134
- 佐藤恒徳「無限の論理と無限の美感　カントの崇高論」、『倫理学年報』、第57集、2008年
- 佐藤恒徳(翻訳)　ゲルノット・ベーム「カントにおける自己開化」、『思索』(東北大学哲学研究会) 第40号、2007年
- 佐藤優子「人間が神に向き合う最後の可能性　－「最後の神」」、鹿島徹・相楽勉・佐藤優子・関口浩・山本英輔・H.P.リーダーバツハ共著『ハイデガー『哲学への寄与』解説』(平凡社) 2006年。
- 佐藤優子、「「宗教的生」とは何か　－ハイデガー宗教現象学講義をめぐって－」、『東北哲学会年報』(東北哲学会) 第23号、47頁 - 58頁、2007年。
- 信太光郎「力と歴史　力学的差異　の観点によるハイデガー哲学の再解釈の試み」、『倫理学年報』、55、2006年
- 信太光郎「ハイデガーの生命論的時間論」、『現象学年報23』日本現象学会編 2007年
- 信太光郎「人間の根源的有限性と時間　死すべきものの自由をめぐるハイデガー

- の思考』、『思索』(東北大学哲学研究会) 第41号、2008年
- 菅原宏道、「ヒュームの因果論における実験的推理法と前提事項」、『東北哲学
会年報』、第27号、31-47ページ、2011年
- 鈴木亮三「人間の变容と労働 - ヘーゲルの労働論を手引きに」、東北哲学会年報、
第24号、43-58頁、2008年。
- 鈴木亮三「死すべきものの仕事」、『どう生き どう死ぬか』竹之内裕文・岡部健
の共著所収、弓箭書院、2009年。
- 田代志門「確率化する医療と『インフォームド・コンセント』の誕生」、杉田米行
監修『日米医療保障比較』、アーキテクト、2006年
- 田代志門「被験者保護システムの構築に向けて」、『臨床倫理学』、4、2006年
- 田代志門「医療倫理における『研究と治療の区別』の歴史的意義 日米比較の
視点から」、『臨床倫理学』、4、2006年
- 二瓶真理子、「人間/非人間が作り出す世界 アクターネットワーク概観」、『モ
ラリア』、東北大学倫理学研究会、第14号、61-77、2007年
- 二瓶真理子、「経験的基礎と世界3」、『東北哲学会年報』、東北哲学会、第24号、
29-41、2008年
- 二瓶真理子、「ポパー、心の哲学への視点」、『ポパー・レター：日本ポパー哲学研
究会会報』(日本ポパー哲学研究会) VOL.20-No.2、2009年
- 二瓶真理子、「科学的事実はつくり出されているのか？ 実験室科学における「社会的
構成」と「実物的安定性」」、『文化』、東北大学文学会編、第73巻第3・4
号、pp.361-343、2010
- 二瓶真理子、「書評：Agassi & Meidan, Philosophy from A Skeptical Perspective」、
『批判的合理主義研究』(日本ポパー哲学研究会編) Vol.2, No.1、33-37、2010
- 日笠晴香「R・ドゥオーキンにおける生の不可侵性と生死に関する決定」、『思索』
(東北大学哲学研究会) 第39号、2006年
- 日笠晴香「一つの人生か別の人格か 事前指示の有効性をめぐって」、『医
学哲学・医学倫理』、第25号、2007年
- 日笠晴香「予め決めておく 事前指示をどう考えるか」、清水哲郎編『高齢社会
を生きる 老いる人/看取るシステム』東信堂、2007年。
- 日笠晴香「最期の選択 だれが、なにを、どうやって決めるのか」、『どう生き ど
う死ぬか』竹之内裕文・岡部健の共著所収、弓箭書院、2009年。
- 福岡 聡『現代倫理学事典』、弘文堂、2006年11月(単行本、共著)人名項目(「C.オ
ッフエ」、「J.C.ハーサニ」、「R.プライス」、「R.B.ペリー」、「I.M.ヤング」、「D.K.

- ルイス」,「J.ロイス」,「G.サンタヤナ」)、事項項目(「動物の権利」、「菜食主義」)、および「倫理学基本文献年表」を担当。
- 福間 聡「理由の復権 公共的理性に基づく正当化」, 南山大学社会倫理研究所『社会と倫理』2006年5月、第19号、pp.44-58。
- 福間 聡『ロールズのカント的構成主義 理由の倫理学』, 勁草書房、2007年2月(単行本、単著)
- 福間 聡『経済倫理のフロンティア』, ナカニシヤ出版、2007年5月(単行本、単著)第11章「福祉国家の原理と課題」、第12章「福祉社会の可能性」を担当(共同執筆者 柘植尚則・田中朋弘・浅見克彦・深貝保則・柳沢哲哉)
- 福間 聡『書評：渡辺幹雄著 / 「ロールズ正義論とその周辺」/春秋社(2007)』, 週刊読書人、2007年8月31日(その他)
- 藤尾靖彦「脳神経科学と暴力」『モラリア』15号、10-31頁、2008年
- 藤尾靖彦「幸福と恩寵 - カント実践哲学における幸福主義批判の射程」, 『東北哲学学会年報』25号、2009年
- 松浦明宏 単著『プラトン形而上学の探求 - 『ソフィステス』のディアレクティケーと秘教-』東北大学出版会、2006年4月
- 松浦明宏 項目翻訳執筆「医療倫理(ヨーロッパの歴史：現代)II.南ヨーロッパ」「医療倫理(ヨーロッパの歴史：現代)III.ベネルクス諸国」, 「医療倫理(ヨーロッパの歴史：現代)VIII.中央および東ヨーロッパ」, 『生命倫理百科事典』丸善、2007年1月
- 三谷鳩子「トマスにおける自己認識」, 『哲学』(日本哲学会) 第57号、2006年
- 三谷鳩子「トマスの恩寵論におけるハビトゥス概念の一考察」, 『中世思想研究』(中世哲学会) 第49号、2007年
- 矢口正史、『カントにおける認識の限界性と神の現存在』 ルソ - の思想からの検討、東北哲学学会年報、No. 27、49頁~62頁、2011年
- 山下哲朗「分節から可能性へ ハイデガーにおけるロゴス規定の変容に見る世界概念の仕上げ」, 『思索』(東北大学哲学研究会) 第39号、2006年
- 山下哲朗「カテゴリー的直観と<存在への問い>」, 『東北哲学学会年報』, 東北哲学学会編、第24号、pp.59-72、2008年
- 山下哲朗「カテゴリー的直観とアプリアリな全体性 ハイデガーによるカテゴリー的直観の領得をめぐる」, 『フッサール研究』(フッサール研究会) 第8号、2010年
- 山田圭一「懐疑論を文脈主義によって解決する方法」, 『科学基礎論研究』(科学基

礎論学会編) 第 107 号、2007 年

山田圭一「技術倫理の認識論的基盤の構築を目指して - 工学の認識論に対する文脈主義的アプローチ - 」、『モラリア』(東北大学倫理学研究会 編) 第 14 号、2007 年

山田圭一「最晩年ウィトゲンシュタインの連続性テーゼが意味するもの」、『哲学』(日本哲学会 編) 第 59 号、2008 年

(2) 口頭発表

阿部ふく子「ヘーゲルの「作品」論 個と普遍のあいだへの視座」、北日本哲学会、於・東北大学、2006 年 1 月

阿部ふく子「思弁と弁証法 思弁哲学の困難と可能性をめぐるヘーゲルの視点」、東北哲学会第 56 回大会、於・山形大学、2006 年 10 月

阿部ふく子「理性の思弁と脱自 へーゲルとシェリングにおける理性の可能性に関する考察」、日本ヘーゲル学会第 6 回大会、於・日本女子大学、2007 年 12 月

阿部ふく子「シェリングとヘーゲルの啓蒙批判と教育・学問論」、科研費共同研究公開研究会(課題番号 20320003「空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究」) 於・新潟大学、2008 年 8 月

ABE Fukuko, "Conflict between cultures of the Humanism and the Enlightenment in the age of German-idealism" (ポスター発表), The 1st GCOE International Symposium "Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy", Tohoku University (Sendai), March 2009.

ABE Fukuko, Die Bedeutung des Systems als „Lernen“ der Philosophie: Zum Verhältnis zwischen der Hegelschen Erziehungsanschauung und seiner philosophischen Enzyklopädie, Internationale Hegel-Tagung der japanischen Hegel-Gesellschaft in Tokio, 4. März, 2009.

阿部ふく子「ヘーゲルのアルプス紀行について」、科研費共同研究公開研究会(課題番号 20320003「空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究」) 於・新潟大学、2009 年 8 月

阿部ふく子「思弁哲学の公教性 へーゲルの通俗哲学批判とその克服」、東北哲学会第 59 回大会、於・新潟大学、2009 年 10 月

Fukuko ABE, "A study of the idea of systematic knowledge: On the relation

between nature and spirit in the organizational view on nature”, The 2nd International GCOE symposium on “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy”, no.73, in Tohoku University, Sendai, Japan, February 18-19, 2010. (ポスター発表)

阿部ふく子「哲学と人間形成 ニートハンマー・シェリング・ヘーゲルの教養形成論をめぐって」、日本シェリング協会第19回大会、於・神奈川大学、2010年7月

伊藤周史「視覚における根本的思考の経験」、日本現象学会、2006年10月

遠藤健樹「戦間期シュトラウスにおける「道徳的拘束性」の問題」、第13回政治哲学研究会、2007年8月28日

井頭昌彦、横地徳広、戸島 貴代志、「大学間における工学倫理教育プログラムの改訂用マニュアル作成—工学関連学会での倫理規定を踏まえつつ—」(ポスター発表)、東北大学若手萌芽研究育成プログラム(ERYS)研究成果発表会、2007年7月

遠藤健樹「戦間期シュトラウスにおける「道徳的拘束性」の問題」、第13回政治哲学研究会、2007年8月28日

遠藤健樹「歴史・自然・政治 一九三〇年代のカール・レーヴィット」、東北哲学学会第58回大会、2008年10月

遠藤健樹「解釈学的な相互承認 レーヴィットにおける共同相互存在論の一帰結」、東北大学哲学学会『思索』例会、2010年6月。

大塚良貴「美のトポロジー」、哲学・思想若手研究者の会、2006年3月19日

梶尾悠史「知覚と解釈 フッサール現象学における統握理論をめぐって」、東北哲学学会第59回大会、2009年10月

梶尾悠史「現象学と外在主義 意味志向の超越論的な文脈性」、岩手哲学学会第44回大会、2010年7月

梶尾悠史「苦悩の倫理学 死なないでいることの理由」、現象学を語る会、2009年12月

Kajio Yushi, “Truth and Evidence: A Study of Husserl’s Theory of Truth”, The 3rd GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2011.

Sato Shun, “The Faces of Perceptual Object”, The 3rd GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2011.

- 佐藤恒徳「論理的な大きさと美感的な大きさ 無限論としての崇高論」カント研究会、2006年3月25日
- 佐藤恒徳「無限の論理と無限の美感 カントの崇高論」日本哲学会、2007年5月20日
- 佐藤優子、「「宗教的生」とは何か - ハイデガー宗教現象学講義をめぐって」、東北哲学会、山形大、2006年10月22日。
- 信太光郎「ハイデガーの生命論的時間論」、日本現象学会第28回大会、2006年11月
- 菅原宏道「ヒュームの経験論と実験的推理法 (“Hume’s empiricism and the experimental method of reasoning”)」グローバルCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」、第2回国際シンポジウム、2010年2月18-19日、仙台、日本
- 菅原宏道「ヒュームの因果論における実験的推理法と前提事項」東北哲学会第60回大会、2010年10月23-24日、仙台(東北大学)、日本
- 菅原宏道「ヒュームにおける「観念の関係」の分析性 (“Hume on Analyticity on ‘Relations of Ideas’”)」グローバルCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」、第3回国際シンポジウム、日本、2011年2月17-19日、仙台(東北大学)、日本
- 鈴木亮三「死と再生 ヘーゲル『精神現象学』を導きとして」(日本哲学会)
- 鈴木亮三「異類女房譚 二つの鯉女房」(静岡大、山梨大合同研究会)
- 鈴木亮三「人間の変容と労働」、東北哲学会第57回大会、東北大学、2007年10月。
- SUZUKI Ryozo, “Nature and Technics from a philosophical view point- Work as an act of transformation of human nature through technics” (ポスター発表), The 1st GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), March 2009.
- 鈴木亮三「意識の変容と感情」、日本ヘーゲル学会第9回研究大会、東北大学、2009年6月。
- 鈴木亮三「ヘーゲルにおける感情と精神の問題」、実存思想協会第25回大会、学習院大学、2009年7月。
- SUZUKI Ryozo, The Finiteness of Human Beings and the Role of Technology, The 2nd GCOE International Symposium, Poster presentation, at Tohoku Univ., February 18-19, 2010.
- 田代志門「臨床研究の社会的コントロール」、公開シンポジウム「臨床研究の倫理

- 被験者保護システムの展望」、於・ホテルリッチフィールド仙台、2006年2月
- 田代志門「『研究の定義』をめぐる争い」、第25回日本医学哲学・倫理学会大会、於・大阪大学、2006年10月
- 二瓶真理子「科学的事実につくられているのか？ 社会構成主義と实在論の問題」、北日本哲学研究会、2006年1月14日
- 二瓶真理子、「ポパーにおける心身問題と「心の哲学」」、日本ポパー哲学研究会、日本大学文理学部キャンパス、2008年7月5日
- 二瓶真理子、「科学的事実につくられているのか？ 社会構成主義的实在論の構成」、Sendai Logic and Philosophy Seminar、2009年3月
- NIHEI Mariko, "Applying the Research Program Theory for Elucidation of the Notion of Scientific Literacy" (ポスター発表), The 1st GCOE International Symposium "Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy", Tohoku University (Sendai), March 2009.
- 二瓶真理子、「ポパー 3 世界説再考」、科学基礎論学会 2009 年度総会、2009 年 6 月
- Mariko Nihei, "Epistemic deference and Transmission of Knowledge", P-76, The 2nd GCOE International Symposium, Tohoku University, Sendai, Japan, (February 18-19, 2010)
- Mariko Nihei, "The Distinction between Social and Epistemic Values in Scientific Inquiry", The 3rd GCOE International Symposium "Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy", Tohoku University (Sendai), Feb 2011.
- 日笠晴香「R・ドゥオーキンにおける生の不可侵性と生死に関する決定」、東北大学哲学研究会、2006年6月
- 日笠晴香「一つの人生か別の人格か 事前指示の有効性をめぐって」、日本医学哲学・倫理学会、於・大阪大学、2006年10月
- 日笠晴香「認知症患者の意思決定をどう考えるか 患者の自律と脳神経科学」、名古屋哲学フォーラム「脳神経科学の哲学」、南山大学、2009年9月。
- Hikasa Haruka, Medical technology and surrogate decision-making, The 2nd GCOE International Symposium, Poster presentation, at Tohoku Univ., February 18-19, 2010.
- 福間 聡「フレーゲ-ゲーチ問題と規範-表出主義 論理と理由の観点から」、第56回東北哲学会、山形大学小白川キャンパス、2006年10月。(国内学会)

- 福間 聡「ロールズ哲学から見た規範倫理学とメタ倫理学 政治哲学における「理由」の復権」, 南山大学社会倫理研究所懇話会(2006年第2回), 南山大学名古屋キャンパス、2006年6月。(国内研究会)
- 福間 聡「Allan Gibbard, *Wise Choices, Apt Feelings* をめぐって」, 広島大学応用倫理学プロジェクト研究センター2006年度第二回例会、ホテルグランヴィア広島、2006年12月。(国内研究会)
- 藤尾靖彦「幸福と恩寵 - カント実践哲学における幸福主義批判の射程」, 東北哲学会第58回大会、秋田大学(秋田), 2008年10月
- FUJIO Yasuhiko, “An Interface between Science-Technology and Society: Evaluation and Acceptance of Risk” (ポスター発表), The 1st GCOE International Symposium ”Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), March 2009.
- 藤尾靖彦「「幸福に相応しい」ということと恩寵」 カントにおける最高善の可能性を巡って」, 日本倫理学会第60回大会、南山大学(名古屋), 2009年10月
- FUJIO Yasuhiko, ”Risk, uncertainty and the precautionary principle: How to deal with scientific uncertainty?”, The 2nd GCOE International Symposium ”Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), February 2010.
- FUJIO Yasuhiko, “An inquiry into the ethical significance of the precautionary principle: How to make decisions under uncertainty”, The 3rd GCOE International Symposium ”Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2011.
- 松浦明宏「プラトンの対話篇に書かれた秘教 - 「あらぬもの」のエイドス-」, 第4回多摩哲学会、2006年9月
- 松浦明宏「徳とは何か 隠れたカリキュラム再考」, 第56回東北哲学会、2006年10月
- 松浦明宏「「隠れたカリキュラム」概念の再考」, 神戸大学医学部保健学科学習会「看護教育における『隠れたカリキュラム』に関する研究」, 2007年1月
- 矢口正史「カントの「世界の現存在の究極目的論」が意味するもの」, 東北哲学会第59回大会、2009年10月
- 矢口正史「カントにおける認識の限界性と神の現存在—ルソーの思想からの検討」, 東北哲学会 第60回大会、2010年10月
- 山田圭一「ウィトゲンシュタイン的文脈主義によって知識を壊れにくくする」, 哲

- 学若手研究者フォーラム、2008年7月
- 山下哲朗「ハイデガーにおけるロゴス規定の変容に見る、世界概念の仕上げ」、東北大学哲学研究会、2006年6月
- 山下哲朗「カテゴリー的直観と〈存在の問い〉」、第16回「現象学を語る会」、2007年6月
- 山下哲朗「カテゴリー的直観と〈存在への問い〉」、東北哲学会第57回大会、2007年10月
- YAMASHITA Tetsuro, "Science and its ontological genesis" (ポスター発表), The 1st GCOE International Symposium "Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy", Tohoku University (Sendai), March 2009.
- 山下哲朗「カテゴリー的直観とアプリアリな全体性—ハイデガーによるカテゴリー的直観の領得をめくって—」、第8回フッサール研究会、2009年3月
- YAMASHITA Tetsuro, "The ontological genesis and structure of the theoretical attitude", The 3rd GCOE International Symposium "Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy", Tohoku University (Sendai), Feb 2011.

3 大学院生・学部生等の受賞状況

- 福間 聡 日本倫理学会 和辻賞 2007年11月
- 山田圭一 日本哲学会 若手研究者奨励賞 2008年5月
- 梶尾悠史 石川県白山市 暁烏敏賞 2009年11月
- 山田圭一 日本倫理学会 和辻賞 2010年11月

4 日本学術振興会研究員採択状況

- 2002～2004年度 PD採用 1名
- 2003～2004年度 DC2採用 1名
- 2003～2005年度 DC1採用 1名
- 2003～2005年度 PD採用 1名
- 2004～2005年度 DC2採用 2名
- 2005～2006年度 DC2採用 1名
- 2007～2009年度 DC1採用 1名
- 2010年度 DC2採用 1名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

年度	学部	大学院	計
06	1	0	1
07	1	0	1
08	1	0	1
09	0	0	0
10	1	1	2
計	4	1	5

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
06	0	1	1
07	0	0	0
08	0	0	0
09	2	0	2
10	2	0	2
計	4	1	5

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
06	0	0	0
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	1	1
10	0	0	0
計	0	1	1

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

千葉 胤久 北海道教育大学旭川校講師 2004年度
山本 史華 東北大学薬学研究科 COE 助手 2004年度
竹之内 裕文 東北大学文学研究科助手 2005年度
菅沼 聡 東北大学文学研究科助手 2006年度
竹之内 裕文 静岡大学農学部助教授 2006年度

張 政遠	香港中文大学講師	2007 年度
菅沼 聡	北海道教育大学函館校准教授	2008 年度
齋藤 直樹	東北大学文学研究科助教	2008 年度
齋藤 直樹	盛岡大学文学部准教授	2009 年度
伊藤 周史	東北大学文学研究科助教	2010 年度
山田 圭一	山形大学人文学部准教授	2010 年度
井頭 昌彦	一橋大学准教授	2011 年度
千田芳樹	一関高等工業専門学校	2011 年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

なし

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

ガブリエル・アーベレス（ビーレフェルト大学講師）・・・）2006年7月

フィリップ・モッセ（フランス・経済労働社会学研究所（LEST）所長）2006年9月

劉 國英（香港中文大学教授）2006年11月

チャールズ・バーネット（ケンブリッジ大学教授）2006年12月

リュック・ブリッソン（社会科学研究所教授）2007年1月

林 嵐（吉林大学教授）2006年12月、2007年2月

ハンス・ラダー（アムステルダム自由大学教授）2007年3月

ゲルノート・ベーム（ダルムシュタット工科大学名誉教授）2007年4月

ロナルド・ブルジーナ（ケンタッキー大学教授）2007年7月

張 政遠（香港中文大学講師）2007年8月

ギュンター・ゲバウアー（ベルリン自由大学教授）2007年9月

ダニエル・オグデン（エクセター大学教授）2007年9月

カロリナ・グリュンシュロス（ハインリッヒ・ハイネ大学講師）2007年9月

ドン・アイディ（ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校 Distinguished Professor）2008年9月

アンドリュー・フィーンバーグ（サイモン・フレーザー大学教授、カナディアン・

リサーチチェア) 2009年3月
ラングドン・ウィナー(ニューヨーク州 レンセラー・ポリテクニク・イン
スティテュート教授) 2009年3月
クラウス・ヘルト(ドイツ ヴッパタール大学名誉教授) 2009年11月
ジェナン・イスマエル(アリゾナ州、インディアナ大学准教授) 2010年2月
張 政遠(香港中文大学講師) 2010年7月

10 刊行物

『思索』(東北大学哲学研究会) 年刊
『モラリア』(東北大学倫理学研究会) 年刊
『東北哲学会年報』(東北哲学会) 年刊
『臨床倫理学』 不定期 1号(2000)、2号(2002)、3号(2004)、4号(2006)

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

東北哲学会事務局(2006~2010年度)
2006年度4月 日本哲学会第55回大会開催(東北大学)
2006年度 講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的考
察」主催 Luc Brisson 「プラトンにおける神々」 学内 1月12日
2006年度 第1回公開講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社
会哲学的研究」
2006年度 KNS研究会(熊野)
2006年度 東北哲学会第55回大会・総会開催およびシンポジウムと講演会の企
画・主催:
2006年度 公開シンポジウム 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社
会哲学的研究」
2006年度 第2回公開講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社
会哲学的研究」(劉)
2006年度 講演会 日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業
《医療システムと倫理》主催 2006年12月7日 ライダー・K・リー(Reidar・
K・Lie)「国際共同研究の倫理」アメリカ国立衛生研究所臨床生命倫理学部門
国際研究倫理セクション長 東北大学医学部良陵会館
2006年度 科研研究会(山内、Charles Burnett) 2006年12月20日(清水中世科
研)

- 2006年度 第8回 北日本哲学研究会(北海道大学にて開催)
- 2006年度 第4回公開講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(Hans Radder)
- 2006年度 シンポジウム 日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業《医療システムと倫理》主催 「被害のあと 医療におけるケア・補償・責任」2007年2月3日(土) ハーネル仙台
- 2007年度 第1回公開講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(G.ゲバウアー)「唯物論と後期ウィトゲンシュタイン」学内 9月4日
- 2007年度 第2回公開講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(Daniel Ogden)「ギリシャ・ローマ世界における魔術と幽霊」学内 9月5日
- 2007年度 第1回公開シンポジウム 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」10月27日予定
- 2007年度 第1回オープンフォーラム 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(東北大学未来科学技術協同センター組織マネジメントプロジェクト、大阪大学コミュニティーデザインセンタと共催)予定
- 2007年度 東北哲学会第56回大会・総会開催およびシンポジウムと講演会の企画・主催：
- 2007年度 講演会 「アフォーダンスの倫理学」(河野)11月5日
- 2007年度 KNS研究会 「社会的合意の哲学」(桑子)12月4日
- 2007年度 KNS研究会 「経験批判としての臨床哲学」(中岡)12月19日
- 2007年度 第9回 北日本哲学研究会(東北大学にて開催)
- 2007年度 公開シンポジウム「医療・介護現場における価値評価と意思決定」(東北大学21世紀COEプログラム CRESCENDO(医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点))2月2日
- 2008年度 KNS研究会 「メルロポンティ『眼と精神』における視覚の存在論」「ドゥルーズと歴史の概念について」(村田)7月16日
- 2008年度 第2回オープンフォーラム 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(東北大学未来科学技術協同センター組織マネジメントプロジェクト、大阪大学コミュニティーデザインセンタと共催)8月30日
- 2008年度 第1回公開講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(Don Ihde)「Postphenomenology: Human and Machinic

- Embodiments” 9月16日
- 2008年度 キックオフミーティング 東北大学 GCOE プログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」 9月29日
- 2008年度 KNS 研究会 「ドゥルーズと歴史の概念について」(檜垣) 12月10日
- 2008年度 講演会 「マスメディアの哲学的次元—情報倫理の問題を中心に—」(大黒) 12月16日
- 2008年度 第10回 北日本哲学研究会(北海道大学にて開催)
- 2009年度 第1回国際シンポジウム 東北大学 GCOE プログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」 3月5日~7日
- 2009年度 科学研究費基盤B「科学技術における討議倫理のモデル構築」第1回研究会「ハーバースマ討議倫理とホネット承認論の形成と対比」8月1日
- 2009年度 公開講演会 Kraus Held “Idealisierung Als Schicksal Europas” 11月3日
- 2009年度 KNS 研究会 「ヘーゲルの様相論をめぐって--偶然性と必然性の相即--」(高山) 12月16日
- 2009年度 公開講演会 「「生命倫理」について考える 命は誰のものか」(香川) 1月22日
- 2009年度 第一回セミナー「歴史のなかの科学と哲学」 東北大学 GCOE プログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」連携企画「連続セミナー：社会のなかの科学の諸相」 1月23日
- 2009年度 第2回国際シンポジウム 東北大学 GCOE プログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」 2月18日~19日
- 2009年度 公開ワークショップ J. Ismael “On Being of One Mind” 2月20日
- 2009年度 第二回セミナー「巨大科学と科学コミュニケーション」 東北大学 GCOE プログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」連携企画「連続セミナー：社会のなかの科学の諸相」 2月27日
- 2009年度 KNS 研究会 「自覚と自己代表的体系」(伊藤) 7月22日
- 2010年度 科学研究費基盤B「科学技術における討議倫理のモデル構築」第1回研究会「理論家と実践者の対話I」7月17日、18日
- 2010年度 科学研究費基盤C「プラトンにおける「死後の神話」の哲学的意義の国際的研究」公開シンポ 8月10日

- 2010年度 科学研究費基盤B「科学技術における討議倫理のモデル構築」第1回研究会「理論家と実践者の対話II」10月3日
- 2010年度 第3回国際シンポジウム 東北大学GCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」 2月17日～18日2010年度 公開講演会 2月19日
- 苑拳正氏（台湾大学）For or Against Scientific Realism: E. McMullin, B. van Fraassen and J. Ladyman
- 林永強氏（香港教育学院）Hermeneutics of “between”: on Watsuji Tetsurō’s Fūdo
- 張政遠氏（香港中文大学）Modernising Japan: A philosophical reflection on “Japanese technology”
- 2011年度 KNS研究会 「プラトンにおけるイデア認識は、直知によるのか？」（金山）7月13日
- 2011年度 「カフェ・シリーズ “震災を忘れず、忘れられないために” 第1回哲学者に聞く」（講師：野家啓一、ファシリテータ：長神風二）7月27日
- 2011年度 科学研究費基盤B「科学技術における討議倫理のモデル構築」第1回研究会
- 「原子力工学分野におけるSTS的コミュニケーションの可能性」（神里達博）
- 「原子力についての対話とは」（直江清隆）
- 「対話フォーラムにおける公正さについての一考察」（荻原理）

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

- 2007年度 東北大学哲学研究会（『思索』発表会）開催（6月3, 14, 21, 28日 文学研究科棟にて）
- 2007年度 第31回フッセル・アーベント開催（講師：ベーム、小川侃）
- 2008年度 東北大学哲学研究会（『思索』発表会）開催（6月9, 16日 文学研究科棟にて）
- 2008年度 第32回フッセル・アーベント開催（講師：野家伸也）
- 2009年度 第33回フッセル・アーベント開催（講師：村上靖彦）
- 2010年度 第34回フッセル・アーベント開催（講師：田口茂）
- 2011年度 第35回フッセル・アーベント開催（講師：竹内整一）

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

本研究分野は、倫理学専攻分野と連携して、哲学講座としての研究活動を行っており、ことに最近では人間の 21 世紀的 Well-being 研究プロジェクトとして、研究を順調に展開していると評価できる。今後は理学研究科のグローバル COE 「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」に積極的に参加すると共に、より国際的な場での活躍へ向けて、一層の努力をしたい。また、研究成果の社会的還元についても一定の成果を挙げてきているが、さらにこの点で展開する可能性がある。

教育活動としては、大学院の学位授与がまだまだ不十分である。ここ 5 年間で在籍のまま学位をとった件数は 0 であるが、退学したのち規定の年限内で学位をとるものは平均して毎年 2 名という状況である。これは指導を強化することにより、今後はさしあたって毎年 2 名程度は出すように努力する必要がある。今年度は 2 名提出予定である。退学後 1 年以内に提出するという条件がついた大学院生に移行しつつあることもあって、学位授与数が増加すると見込まれる。

修了後の就職については、以前よりも厳しい状況になってきているが、ここ数年回復の兆しも現れている。なお、多くの場合、大学等の研究機関の研究・教育職以外の道を見出す必要がある。

教員の研究活動（2007～2011 年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

野家 啓一「物語り論の可能性」、宮本久雄・金泰昌（編）『シリーズ物語り論 1 他者との出会い』所収、東京大学出版会、pp.1～23、2007 年 1 月

野家 啓一「存在するとは物語られることである」、『文学』第 8 巻第 1 号、岩波書店、pp.60～66、2007 年 1 月

野家 啓一「人間存在の修羅と覚醒：今村社会哲学の射程」、『東京経大会誌』第 259 号、東京経済大学経済学会、pp.95～105、2008 年 3 月

野家 啓一「構成主義とは何だろうか：科学哲学の視点から」、『日本物理学会誌』第 63 巻第 5 号、日本物理学会、pp.381～384、2008 年 5 月

野家 啓一「科学のナラトロジー：〈物語りの因果性〉をめぐって」、岩波講座〈哲学〉第 1 巻『いま〈哲学する〉ことへ』、岩波書店、pp.51～72、2008 年 6 月

野家 啓一「哲学のアイデンティティ・クライシス」、『アルケー（関西哲学会年報）』第 16 号、関西哲学会、pp.1～11、2008 年 6 月

野家 啓一「〈人間〉への問いと哲学」、『総合人間学 2』『自然と人間の破壊に抗

- して』、総合人間学会、pp.134～138、2008年6月
- 野家啓一「歴史を書くという行為—その論理と倫理」、岩波講座〈哲学〉第11巻『歴史／物語の哲学』、岩波書店、pp.1～16、2009年1月
- 野家 啓一「不在のものの可視化—物語り行為をめぐる」、『日本文学』第58巻第3号、日本文学協会、pp.24～33、2009年3月
- 野家啓一「生態学的ニヒリズムの行方」、『大航海』第71号、新書館、pp.122～129、2009年7月
- 野家啓一「科学哲学者としての西田幾多郎」、『西田哲学会年報』第6号、西田哲学会、pp.1～17、2009年7月
- 野家啓一「自責と自恃のあいだ—思想詩人としての辻井喬—」、『現代詩手帖』第52巻第7号、思潮社、pp.60～62、2009年7月
- Noe Keiichi “Nishida Kitaro as Philosopher of Science”, *Facing the 21st Century*, (eds.) Lam Wing-keung and Cheung Ching-yuen, Nanzan Institute for Religion and Culture, pp.119-126, August 2009.
- 野家啓一「ノーベル賞の〈反時代的〉意義」、『學鐙』秋号、丸善、pp.6～9、2009年9月
- 野家啓一「ガリレオに対する二度目の断罪」、『現代思想』第37巻12号、青土社、pp.60～64、2009年9月
- 野家啓一「フッサール学問論の現代的射程—ベルクソンとの対比を軸に」、『哲学雑誌』第124巻第796号、哲学会（編）、有斐閣刊、pp.83～100、2009年10月
- 野家啓一「物語り論（ナラトロジー）の射程」、『経営思想研究への討究 学問の新しい形』、村田晴夫・吉原正彦（編）、文眞堂、pp.3～30、2010年4月
- 野家啓一「科学哲学における事実と理論」、『要件事実論と基礎法学』、伊藤滋夫（編）、日本評論社、pp.261～305、2010年7月
- 野家啓一「主観と客観のあいだ」、『認識と運動における主体性の数理脳科学』、高等研報告書0905、国際高等研究所、pp.82～114、2010年8月
- 野家啓一「科学・形而上学・物語り ホワイトヘッド『科学と近代世界』再読」、『プロセス思想』第14号、日本ホワイトヘッド・プロセス学会、pp.9～30、2010年9月
- 野家啓一「覚醒倫理への道 今村仁司『親鸞と学的精神』をめぐる」、『モラリア』第17号、東北大学倫理学研究会、pp.1～22、2010年10月
- 野家啓一「〈場所〉とくあいだ〉：知の統合への哲学的アプローチ」、『横幹』Vol.4

- No.2、横断型基幹科学技術研究団体連合、pp.81～88、2010年10月
- 野家啓一「フッサール学問論の現代的射程」、『哲学雑誌』第124巻第796号、哲学学会編、pp.83～100、2010年10月
- 野家啓一「哲学とは何か 科学と哲学のあいだ」、『日本の哲学』第11号、日本哲学史フォーラム編、pp.8～22、2010年12月
- 野家啓一「日本語で哲学するということ 坂部恵の詩と哲学」、『別冊水声通信』『坂部恵 精神史の水脈を読む』水声社、pp.127～142、2011年6月
- 野家啓一「大震災とリスク社会」、『學鐙』第108巻第2号、丸善、pp.26～29、2011年9月
- 座小田 豊 「芸術と無限」(栗原隆編『芸術の始まる時、尽きる時』東北大学出版会、2007年3月)427-447頁
- 座小田 豊 「フィヒテ - 無限の自我と真実の生」(加藤尚武編『哲学の歴史第7巻』中央公論新社、2007年7月)300 - 346頁
- 座小田 豊 「「真実の生」における人間——フィヒテ宗教論の射程」(『フィヒテ研究』日本フィヒテ協会、第15号、2007年11月)
- 座小田 豊 「「無限」の形象化と心の襞—構想力の可能性について—」(栗原隆編『形と空間のなかの私』東北大学出版会、2008年4月)79-98頁
- 座小田 豊 「「自由」の運命としての否定性——「おのれを実現する懐疑主義」」(『ヘーゲル哲学研究』日本ヘーゲル学会、第14号、2008年12月)66-70頁
- 座小田 豊 「近代哲学における「神」概念の行方——「合理性」概念の哲学的理解のために——」科学研究費補助金基盤研究(A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(研究代表者 野家啓一)成果報告書 2009年3月、14-40
- 座小田 豊 「「神を認識する」とはどのようなことか——」(『シェリング年報』日本シェリング協会、第17号、2009年9月)26-37
- 座小田 豊 「ヘーゲル哲学における神の思想」(『フィロソフィア・イワテ』岩手哲学会、第42号、2010年11月)37-50
- 座小田 豊 「共有知としての「良心」についての一考察 「良心」は誰のものか？」(栗原隆編『共感と感応』東北大学出版会、2011年4月)77-103頁
- 直江清隆「技術のインターフェイス 人間-人工物-世界」、『岐路に立つ人文学』

- 大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」、2007 年 1 月、p.61~81。
- 直江清隆 「カッシーラー」、須藤訓任編『哲学の歴史』第 9 巻、中央公論新社、2007 年 8 月、p.429-~52
- 直江 清隆 Design Culture and acceptable Risk、P.Vermaas et.al.(ed.), Philosophy and Desing, Springer,2008 年 2 月
- 直江清隆 「技術の哲学と倫理という課題」『モラリア』第 14 号、東北大学倫理学研究会、2007 年 10 月、p.1~7.
- 直江 清隆「宇宙技術の価値」 伊藤邦武編『科学 / 技術の哲学』(岩波講座哲学第 10 巻) 岩波書店、2008 年 9 月、p.176-198。
- 直江清隆「創造と受容(1)」『思索』第 41 号、2008 年 10 月、p.1-14。
- 直江清隆「脳と心の哲学的問題圏へ」、『モラリア』第 15 号、2008 年 10、p.1~9。
- 直江清隆「科学技術の合理性と組織における倫理」科学研究費補助金基盤研究(A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(研究代表者 野家啓一) 成果報告書 2009 年 3 月、pp.78-94。
- 直江清隆「Brain-Machine Interface から見る生命という価値」 高橋隆雄、糸和彦編『生命という価値 その本質を問う』九州大学出版会、2009 年 4 月、p.128-146。
- 直江清隆「創造と受容(2)」『思索』第 42 号、2009 年 10 月、p.1-19。
- 直江清隆『薬学生のための医療倫理』松島哲久、盛永審一郎編、2010 年 4 月。
- 直江清隆「高橋里美の包弁証法」『ヘーゲル研究』2010.12.
- 直江清隆「科学・技術論」小坂國継・本郷均編『概説 現代の哲学・思想』ミネルヴァ書房』2010.
- 直江清隆「高橋里美の包弁証法」『ヘーゲル研究』2010.12. p.98-105.
- 直江清隆「レーヴィット再論のために」『東北哲学会年報』27 号、p.63-77, 2011.3
- 直江清隆「技術者倫理から技術の倫理へ」『技術倫理と社会』第 6 号、2011、p.105-115.
- 直江清隆「科学・技術論」小坂國継・本郷均編『概説 現代の哲学・思想』ミネルヴァ書房、2011.p.316-336.
- 直江清隆「遺伝と環境」『シリーズ生命倫理学』第 11 巻、丸善出版(印刷中)
- 直江清隆「人工物と知識」『思索』第 44 号。
- 荻原理「ジル・ドゥルーズのルクレティウス論」、『古代ギリシアにおける理性・合理性の概念—近現代の概念との対比に留意して、研究課題番号 16720003、

- 平成 16 年度～平成 18 年度科学研究費補助金、若手研究 (B) 研究成果報告書』、2007 年 3 月、pp. 28-38 .
- 荻原理「 J . マクダウエルの合理性概念」、『古代ギリシアにおける理性・合理性の概念—近現代の概念との対比に留意して、研究課題番号 16720003、平成 16 年度～平成 18 年度科学研究費補助金、若手研究(B) 研究成果報告書』、2007 年 3 月、pp. 39-45 .
- 荻原理「われわれがしていることにめまいをおぼえてはならない」、『思想』(岩波書店) 1011、2008 年 7 月、pp. 80-96 .
- 荻原理「学位論文におけるマルクスの方法の一側面」、『文化』(東北大学文学会) 第 71 号、2008 年 10 月、掲載決定。
- Satoshi Ogihara, 'The Epicurean Attitude toward Death', in *International Colloquium of Ancient Philosophy and Greco-Roman Studies -2008 Summer*, Korean Society of Greco-Roman Studies, 2008, pp. 47-58.
- 荻原理「社会的合理性、科学的合理性、古代哲学」、『科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究、研究課題番号 18202001、平成 18 年度～平成 20 年度科学研究費補助金、基盤研究(C) 研究成果報告書』、2009 年 3 月、pp. 48-60.
- Satoshi Ogihara, 'The Contrast between Soul and Body in the Analysis of Pleasure in the Philebus', in John Dillon, Luc Brisson (eds.), *Plato's Philebus: Selected Papers from the Eighth Symposium Platonicum*, Academia Verlag, 2010, pp. 215-220.
- 荻原理「ジョヴァンニ・フェラーリの『ポリテイア』解釈の一端」、『理想』、686 号、24-35 頁、2011 年
- 荻原理「マイケル・スミスにしたがって 動機づけについての弱い内在主義の擁護」、『倫理学年報』、第 60 集、57～60 頁、2011 年
- 荻原理「中畑のマクダウエル理解について」、『メトドス』、第 43 号、32～36 頁、2011 年
- Hara, S. Phenomenal Theory of Representational Content. A Similarity-Based Approach. *Proceedings of the 1st BESETO Conference of Philosophy*, 58-68. 2007.
- 原 塑「神経倫理学とは何か：メディア暴力規制に関する議論を例として」、『UTCP 研究論集 8』、3 頁～15 頁、2007 年。
- 原 塑「脳神経倫理学の成立とその将来的課題」、『創文』、第 505 号、創文社、10 頁～13 頁、2008 年
- 原 塑「食品による〈社会〉の増強 - オキシトシンと神経経済学」、『科学』第 78 巻

第 8 号、860 頁～864 頁、2008 年

Hara, S. Media Violence within the Framework of Biomedical Ethics: Why Hurley's Argument Fails. (K.Ishihara & S.Majima (eds.). *Applied Ethics: Perspectives from Asia and Beyond*. Center for Applied Ethics and Philosophy, Graduate School of Letters, Hokkaido University, 130-137. 2008.

原 塑「メディア暴力と人間の自律性」(信原幸弘、原塑『脳神経倫理学の展望』勁草書房、149 頁～172 頁、2008 年

永岑光恵、原塑、信原幸弘「振り込め詐欺への神経科学からのアプローチ」『社会技術研究論文集』6、177 頁～186 頁、2009 年、

原 塑、廣野喜幸「脳科学と社会：脳科学リテラシーの観点から」『脳と心はどこまで科学でわかるか』、南山堂、2009 年

原 塑「脳のマジュール化と神経科学によるイノベーション」『MORALIA』第 16 号、1 頁～25 頁、2009 年

原 塑、鈴木貴之、坂上雅道、横山輝雄、信原幸弘「大学における教養教育を通じた脳神経科学リテラシーの向上～ポスト・ノーマル・サイエンスとしての脳神経科学とその科学リテラシー教育～」『科学技術コミュニケーション』第 7 号、105 頁～118 頁、2010 年

原 塑、状態空間意味論：脳はどのように世界を表象するのか？」『思索』第 42 号、1 頁～30 頁、2010 年

原 塑「脳神経科学リテラシーに向けて」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、1 頁～17 頁、2010 年

原 塑「知覚：環境変化の見落としについて」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、21 頁～36 頁、2010 年

原 塑「信頼：社会性の神経経済学」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、125 頁～142 頁、2010 年

原 塑、永岑光恵「加齢：認知機能の変容」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、241 頁～259 頁、2010 年

原 塑「広告利用：脳トレ広告にみる脳神経科学言説の信頼性」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、261～286 頁、2010 年

原 塑「意図的行為は理由の空間に含まれるのか？ 意図的行為における因果・表現・制御」、『共生の現代哲学：門脇俊介記念論集』、The University of Tokyo Center for Philosophy、11～32 頁、2011 年

1-2 著書・編著

- 野家 啓一 『増補 科学の解釈学』ちくま学芸文庫、2007年1月
- 野家 啓一 『ヒトと人のあいだ』(編著) 岩波書店、2007年6月
- 野家 啓一 『歴史を哲学する』岩波書店、2007年9月
- 野家 啓一 『現代に挑戦する哲学』(編著) 学文社、2007年11月
- 野家 啓一 <哲学の歴史> 第10巻 『危機の時代の哲学』(編著) 中央公論新社、
2008年3月
- 野家 啓一 『パラダイムとは何か』講談社学術文庫、2008年6月
- 野家 啓一 『科学技術の受容と日本文化の特質』(講演録) J S T 社会技術研究
開発センター、2008年12月
- 野家 啓一 『科学技術と知の精神文化』(共著) 丸善プラネット、2009年3月
- 野家 啓一 韓国語訳 『物語の哲学』、the Korean Publishing Marketing Research Institute,
Seoul, 2009年7月
- 信原幸弘、原塑編著 『脳神経倫理学の展望』、勁草書房、2008年
- 信原幸弘、原塑、山本愛実編著 『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、2010年

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

- 野家 啓一 「座談会：いま、なぜ<ヒトの科学>か」、『図書』2007年2月
- 野家 啓一 「インタビュー：“スローサイエンス”ということ」、『考えるということ』
第1号、2007年3月
- 野家 啓一 「エッセイ：廣松哲学との出会い」、『情況』別冊、2007年5月
- 野家 啓一 「インタビュー：二十世紀哲学史のなかの廣松哲学」、廣松渉 『カント
の先験的演繹論』世界書院、2007年5月
- 野家 啓一 「書評：山本義隆 『一六世紀文化革命』」、『山陽新聞』ほか、2007年5
月
- 野家 啓一 「書評：江口重幸ほか(編)『ナラティブと医療』」、『臨床心理学』第7
巻第4号、2007年7月
- 野家 啓一 「書評：大澤真幸 『ナショナリズムの由来』」、『東京新聞』2007年8月
- 野家 啓一 「解説：廣松渉の時代」、廣松渉 『事的世界観への前哨』ちくま学芸文
庫、2007年10月
- 野家 啓一 「エッセイ：<山仲間>としての車谷さん」、『作家 車谷長吉。魂の記録』
姫路文学館、2007年10月
- 野家 啓一 「<男女共同参画>雑感：東北大学の取り組み」、『科哲』第9号、2007
年11月
- 野家 啓一 「風雅月記1~3」、『朝日新聞』夕刊、2007年10月12日、11月9日、
12月14日

- 野家 啓一 「<哲学無用論>に抗して」、『學術の動向』第12巻第12号、2007年12月
- 野家 啓一 辞典項目「科学者の社会的責任」、『応用倫理学事典』、丸善、2008年1月
- 野家 啓一 「解説：詩人哲学者の面目」、坂部恵『かたり』ちくま学芸文庫、2008年2月
- 野家 啓一 「大出晁先生の<学恩>」、『大出晁そして大江晁』慶応大学出版会、2008年2月
- 野家 啓一 「科学技術時代のリベラル・アーツ」、『學術の動向』第13巻第5号、2008年5月
- 野家 啓一 「行列ができる知の快適空間へ」、『2009年版大学ランキング』朝日新聞出版、2008年5月
- 野家 啓一 「座談会：哲学はいま」、『図書』岩波書店、2008年5月号
- 野家 啓一 「不幸な出会い：『杜子春』と『秋山図』」、『芥川龍之介全集』第19巻「月報19」岩波書店、2008年7月
- 野家 啓一 「学問が人間性にとってもつ意味」、『<哲学の歴史>別巻『哲学と哲学史』中央公論新社、2008年8月
- 野家 啓一 「国立大学法人化のジレンマ」、『現代思想』第36巻第12号、2008年9月
- 野家 啓一 「科学と哲学のあいだ：パスカルにならって」、『Science web』vol.1、2008年9月
- 野家 啓一 「書評：大塚信一『哲学者・中村雄二郎の仕事』」、『週刊読書人』2008年12月
- 野家 啓一 「論理経験主義から全体論へ（W.V. クワイン）」、『命題コレクション哲学』坂部恵・加藤尚武（編）筑摩書房、pp.386~393、2008年11月
- 野家 啓一 「読書アンケート」、『みすず』みすず書房、2009年1月
- 野家 啓一 「開会挨拶」、『女性百年—教育・結婚・職業—』、「女性百年」刊行委員会（編）東北大学出版会、2009年3月
- 野家 啓一 「虚実皮膜の間 『歴史／物語の哲学』への脚注」、『アリーナ』第6号、中部大学国際人間学研究所、pp.352~355、2009年3月
- 野家 啓一 「解説：<出入自在>の門」、大橋良介『日本的なもの、ヨーロッパ的なもの』講談社学術文庫、2009年5月
- 野家 啓一 「思い出の中公新書」、『中公新書の森』、中央公論新社、2009年5月
- 野家 啓一 「フロイトと科学哲学」、『フロイト全集』第12巻「月報11」岩波書店、2009年6月
- 野家 啓一 「書物逍遥：『ポオ全集』のこと」、『ミネルヴァ通信』、ミネルヴァ書房、2009年6月
- 野家 啓一 「<スロー・サイエンティスト>としての寺田寅彦」、『寺田寅彦全集』第2巻「月報2」岩波書店、2009年10月
- 野家 啓一 「『共通感覚』の変化と深化 大橋良介『感性の精神現象学』を読む」、『創文』第525号、創文社、2009年11月
- 野家 啓一 「爽やかに筋を通す人 大塚和夫さんを偲ぶ」、『Field+』第3号、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2010年1月

- 野家 啓一「読書アンケート」、『みすず』、みすず書房、2010年1月
- 野家 啓一「書評：合庭惇『ハイデガーとマクルーハン』」、『週刊読書人』第2825号、2010年2月
- 野家 啓一「巻頭言：論理と感性のあいだ」、『Newsletter』第12号、慶応大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点、2010年6月
- 野家 啓一「アヤちゃんの白い下穿き」、『車谷長吉全集』第1巻「月報」、新書館、2010年6月
- 野家 啓一「人間的自由の行方 高山守『因果論の超克』に寄せて」、『UP』第452号、東京大学出版会、2010年6月
- 野家 啓一「書評：中山元『フーコー生権力と統治性』 / 金森修『<生政治>の哲学』」、『読売新聞』2010年6月6日
- 野家 啓一「インタビュー：文系・理系の垣根を越えて学び続けるために」、『まなびのめ』第9号、笹気出版印刷株式会社、2010年7月
- 野家 啓一「読書アンケート」、『みすず』、みすず書房、2011年1月
- 野家 啓一「『3・11』とは何か：人々の意識を変える大きな転換点」、『西日本新聞』2011年4月12日
- 野家 啓一「巻頭言：大震災のただ中で」、『日本学会議第一部 Newsletter』第21期第7号、2011年6月
- 野家 啓一・鈴木厚人「対談：震災復興と研究教育と社会貢献への思い」、『Scienceweb』第11号、2011年6月
- 野家 啓一「書評：和合亮一『詩の磔』 / 『詩の黙礼』 / 『詩の邂逅』」、『読売新聞』2011年7月3日
- 野家 啓一・阿部恒之「特別対談：“東北地方太平洋沖地震”に直面して改めて言葉の力について考えた」、『考えるということ』第6号、東北大学文学部、2011年7月
- 野家 啓一「大震災とともに考える」、『今こそ、学問の話をしよう』学校法人河合塾・教育研究部、2011年7月
- 野家 啓一「大震災のなかの読書」、『図書』2011年8月号

座小田 豊 翻訳 オイゲン・フィンク『存在と人間 - 存在論的経験の本質について』（法政大学出版局）2007年4月（信太光郎・池田準と共訳）全350頁

座小田 豊 書評「詩的反省の翼に乗って、ただなかに漂わん」（『ドイツ・ロマン主義研究』伊坂青司・原田哲史編、御茶の水書房、2007年）（『シェリング年報』2007年、第15号）

座小田 豊 翻訳（共訳）：ヘーゲル『芸術の哲学 1826年夏学期の講義から』（科学研究費成果報告書『「新旧論争」に顧みる進歩史観の意義と限界、並びにそれに代わり得る歴史モデルの研究』（代表者：栗原隆 2008年3月）149-175頁（阿部ふく子と共訳）

座小田 豊 翻訳（共訳）：ハンス・ブルーメンベルク『コペルニクス的宇宙の生成 第2巻』（法政大学出版局）2008年7月（小熊正久・後藤嘉也と共訳）

全 433 頁

座小田 豊 翻訳(単訳): フィヒテ『道徳論の体系 1812年』フィヒテ全集第
21巻(哲書房)2009年3月、181-334頁

座小田 豊 書評: 久保陽一編『ヘーゲル体系の見直し』(理想社)2011年11
月27日、『図書新聞』2991号

座小田 豊 翻訳(共訳): ハンス・ブルーメンベルク『コペルニクスの宇宙の
生成 第3巻』(法政大学出版局)2011年10月(小熊正久・後藤嘉也と共
訳)全319頁

直江清隆 編集および項目執筆「科学倫理」「科学/研究の倫理」「アクターネッ
トワークと集団の倫理」『応用倫理学事典』丸善、2008年1月

直江清隆 解説「科学哲学によって つながる こと」オカーシャ『科学哲学』
廣瀬覚訳、岩波書店、2008年3月

直江清隆 「組織の責任論考序」『アソシエ 21 ニュースレター』、2008年8月、
p.5~p.8.

直江清隆 「科学技術と哲学/倫理」『Science Web』vol.1、2008年9月、東北大
学グローバルCOE物質階層を紡ぐフロンティアの新展開.p.15.

直江清隆 「書評 田口茂著『フッサールにおける 原自我 の問題』」『読書人』
2010.6.25号。

直江清隆 「書評 カッシーラー『象徴形式の形而上学』」『読書人』2010.

直江清隆 翻訳『科学・技術・倫理百科事典』丸善、2011.

直江清隆、二瓶真理子「書評 デービス・ベアード著、松浦俊輔訳『もののかた
ちをした知識-実験機器の哲学』」『科学哲学』43-2号、2010、p.111-115。

荻原 理 翻訳 ジョン・マクダウエル「徳と理性」、『思想』(岩波書店)1011、
2008年7月、pp. 7-33 .

荻原 理 翻訳 ジョン・マクダウエル「何の神話が問題なのか」、『思想』(岩波
書店)1011、2008年7月、pp. 60-79 .

荻原 理「プラトン 見つからなければ不正を犯してもいいか」、『人間会議』(宣
伝会議) 2008年冬号、2008年12月、pp. 78-83.

原 塑「テキストからの展望、ジェームズ『心理学原論』」、村田純一編『講座 哲学
第5巻 心/脳の哲学』岩波書店、265頁~268頁、2008年

原 塑「テキストからの展望、大森荘蔵『物と心』」、村田純一編『講座 哲学第5巻
心／脳の哲学』岩波書店、270頁～273頁、2008年

1-4 口頭発表

野家啓一 提題発表「心身因果をめくって」、国際高等研究所数理脳科学研究会、
2007年3月

野家啓一 招待講演「科学技術の受容と日本文化の特質」、科学技術振興機構社会
技術研究センターRISTEX 研究セミナー、2007年8月

野家啓一 提題発表「哲学のアイデンティティ・クライシス」、関西哲学会シンポ
ジウム、徳島大学、2007年10月

野家啓一 提題発表「今村社会哲学の射程」、学術フォーラム「現代における社会
と文化の理論を求めて：今村仁司記念シンポジウム」東京経済大学、2007年
10月27日

野家啓一 提題発表「科学技術時代のリベラル・アーツ」、日本学術会議第一部公
開シンポジウム「21世紀の大学教育を求めて：新しいリベラル・アーツ教育
の創造」中京大学、2007年12月1日

野家啓一 提題発表「宇宙の中の人間の位置」、花博コスモス・フォーラム「宇宙
と人間」2007年12月9日

野家啓一 提題発表「自己認識する動物」、日本学術会議公開講演会「宇宙と生命、
そして人間を考える」日本学術会議講堂、2008年2月16日

野家啓一 提題発表「科学の進展における哲学の役割」、科学技術振興機構社会技
術研究センターRISTEX ワークショップ、2008年2月25日

野家啓一 コメンテーター「村上陽一郎先生退職記念シンポジウム」東京大学駒
場キャンパス、2008年3月26日

野家啓一 提題発表「哲学と自然科学のあいだ」、国際高等研究所数理脳科学研究
会、2008年3月27日

野家啓一 基調講演「科学哲学者としての西田幾多郎」、西田哲学会大会、西田幾
多郎記念館、2008年7月26日

野家啓一 Panelist “East Asian Country Philosophical Associations Joint Conference 1”,
The XXII World Congress of Philosophy, Seoul National University, 2008年8月1
日

野家啓一 Co-Chair of the Concluding Session “International Conference on Science and
Technology for Sustainability”サピアタワー・ホール、2008年9月13日

- 野家 啓一 提題発表「歴史的な身体：理性と感性をつなぐもの」、旭川ポリフォニー2008「森・空気・感性」、2008年10月11日、ロワジールホテル旭川
- 野家 啓一 特別講演「科学・形而上学・物語り」、日本ホワイトヘッド・プロセス学会、2008年10月25日、青森公立大学
- 野家 啓一 提題発表「不在のものの可視化：物語り行為をめぐる」、日本文学協会第63回大会、2008年11月22日、二松学舎大学
- 野家 啓一 提題発表「リベラル・アーツとしての実験教育」、特色GPシンポジウム、2008年11月27日、東北大学百周年記念会館
- 野家 啓一 研究発表“Nishida Kitaro as a Philosopher of Science”, Envisioning Japanese and Chinese Philosophical Potentials in 21st Century, 13 December 2008, The Hong Kong Institute of Education
- 野家 啓一 提題発表「主観と客観のあいだ」、認識と運動における主体性の数理脳科学研究会、2009年3月11日、国際高等研究所
- 野家 啓一 提題発表「科学技術の転換点」、「学問・芸術と社会」講演と討論の会、学術文化同友会「アルスの会」/GCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」、2009年8月22日、青葉記念会館
- 野家 啓一 基調講演「学術情報と市民社会（公共圏）」、サイエンスアゴラ 2009 シンポジウム「科学コミュニケーションと学術コミュニケーション」、2009年11月2日、日本科学未来館みらいCANホール
- 野家 啓一 特別講演「知識と情報のあいだ」、平成21年度情報教育研究集会、2009年11月14日、東北大学川内萩ホール
- 野家 啓一 特別講演「〈場所〉と〈あいだ〉：知の統合への哲学的アプローチ」、第3回横幹連合コンファレンス、2009年12月4日、東北大学片平さくらホール
- 野家 啓一 提題発表「コスモロジーの復権」、第20回コスモス・フォーラム「大気と人 海、大地との関わり」、2009年12月13日、ベルサール飯田橋
- 野家 啓一 提題発表「哲学とは何か 科学と哲学のあいだ」、土井通子記念京都哲学基金主催シンポジウム「哲学とは何か」、2009年12月26日、京都ガーデンパレス
- 野家 啓一 講演「物語り論（ナラトロジー）からの眺望」、立正大学「歴史・社会叙述とテキスト研究会」、2010年3月13日、立正大学人文科学研究所
- 野家 啓一 講演「科学技術と社会技術」、平成22年度宮城県高等学校理科研究会総会、2010年5月7日、仙台市民会館小ホール

野家 啓一 提題発表「文系大学院の現状と課題」、東北大学高等教育開発推進センター主催シンポジウム「大学教員養成と大学院教育の課題」、2010年6月30日、仙台国際センター

野家 啓一 提題発表「覚醒倫理への道程 今村社会哲学と親鸞」、無限洞主催シンポジウム「今村社会哲学と仏教 『親鸞と学的精神』をめぐって」、2010年7月8~9日、泉ヶ岳やまぼうし

野家啓一 提題発表「哲学的思考の特質 自然主義に抗して」、科学研究費補助金研究会「哲学的思考の特質と哲学教育のあり方」、2010年8月26日、専修大学神田校舎

野家 啓一 コメンテーター、東北中世史サマーシンポジウム「カミと王の呪縛 人々を統合するもの」、2010年8月29日、仙台市戦災復興記念会館

野家啓一 提題発表「見るものと見られるもの 黒田哲学と大森哲学」、哲学会シンポジウム「黒田哲学再考」、2010年10月31日、東京大学文学部

野家啓一 提題発表「物語る自己/物語られる自己」、河合臨床哲学シンポジウム「自己 語りとしじま」、2010年12月11日、東京大学鉄門記念講堂

野家啓一 講演「生命倫理の考え方」、2011年2月23日、宮城県がんセンター

野家啓一 サイエンスカフェ講師「“震災を忘れず、忘れられないために” 第1回哲学者に聞く」(ファシリテータ：長神風二) 2011年7月27日

野家啓一 提題発表「緩和医療におけるEBMとNBM：科学哲学の視点から」、緩和医療学会シンポジウム「緩和ケアにおけるEBMの意義と限界」、2011年7月29日、ロイトン札幌

野家啓一 招待講演「大震災と科学技術」、土木学会トークサロン、2011年9月12日、土木学会講堂

座小田 豊 司会 シンポジウム「精神現象学における否定的なもの」(ヘーゲル学会第5回大会、名古屋市立大学 2007年6月16日)

座小田 豊 シンポジウム：「ドイツ観念論における神」(第17回シェリング協会大会におけるシンポジウム)の提題者：「神を認識するとはどのようなことか」(2008年10月4日 弘前大学人文学部にて)

座小田 豊 第2回日中哲学フォーラム(2009年4月24-26日)における第1分科会「環境、生命、共生に関する哲学の新展開」第1日目の総合司会 担当

座小田 豊 司会：シンポジウム「ヘーゲルとドイツ観念論」(日本ヘーゲル学会大会、2010年6月20日 法政大学市ヶ谷キャンパス)

座小田 豊 第 42 回岩手哲学会大会における公開講演：「ヘーゲル哲学における
神の思想」(2010 年 7 月 17 日、岩手大学にて)

座小田 豊 パネラー：大学出版部研修会シンポジウム「新たな成長モデルを求
めて」, 2011 年 9 月 29 日 日本出版クラブ会館にて)

直江清隆 ワークショップ司会・基調提題「Political Artifacts and their Significance」
第 49 回科学技術社会論研究会 2006 年 3 月 15 日 東京大学.

直江清隆 「生を規定する技術とそのインターフェイス；インターフェイスの強
制力」 大阪大学 COE「人文学のインターフェース」 大阪大学 2006 年 1
月 15 日

直江清隆 「技術のナラティブへの序説」、日本科学史学会東北支部、仙台戦災復
興記念館、2007 年 4 月 22 日.

直江清隆 コメンテータ 『脳神経倫理学の展望』合評会、東京大学大学院総合
文化研究科、2008 年 9 月 26 日。

直江清隆 シンポジウム提題 「科学技術倫理の現在」グローバル COE プログラ
ム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」のキックオフミーティング、
東北大学大学院理学研究科、2008 年 9 月 29 日。

直江清隆 コメンテータ Colloque International “Travail et éthique”, Centre européen
d'études japonaises d'Alsace. 2008.11.9.

直江清隆「企業不祥事と組織倫理：事例分析から」、日独企業倫理セミナー(ハイ
ンリッヒ・ハイネ大学および基盤研究(B)「経済倫理の新たなグローバル・ス
タンドアードの構築」と共同)、ハインリッヒ・ハイネ大学、デュッセルドルフ、
ドイツ、2008 年 11 月 13 日.

直江清隆 シンポジウム組織委員・司会 The 1st GCOE International Symposium
“Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy, 東北大学、2009 年 3 月 5
日-7 日。

直江清隆 シンポジウム提題「高橋里美の包弁証法」 日本ヘーゲル学会、東北
大学、2009 年 6 月 14 日。

直江清隆 ワークショップ提題「技術論の新たな構築に向けて」第 8 回日本科学技術
社会論学会、早稲田大学、2009 年 11 月 15 日。

直江清隆 ワークショップ提題「技術的媒介の哲学に向けて」UTCP 先端教育プログラ
ム「技術哲学セミナー 技術と日本哲学」 東京大学、2009 年 12 月 19 日。

直江清隆 シンポジウム司会 The 2nd GCOE International Symposium “Weaving

Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy, 東北大学、2010年2月17日-18日。

Kiyotaka Naoe ワークショップ提題 “Technological mediation and the Japanese philosophy of technology” International Workshop in Komaba: The present and the future of the philosophy of technology: from a Japanese perspective, The University of Tokyo, 2010.3.9.

直江清隆 ワークショップ提題「哲学の中の技術の知識・認識論」 第2回応用哲学会、北海道大学、2010年4月24日。

直江 清隆 ワークショップ司会・基調提題「高等学校の「哲学・倫理」教育で何をどのように教えるか 大学での哲学教育・教養教育と高校教育との連携に向けて」第69回日本哲学会大会 2010年5月16日 大分大学。

直江清隆 シンポジウムコメンテーター『高レベル放射性廃棄物の処分問題解決へ向けて』日本学術会議公開シンポジウム、日本学術会議講堂、2010年6月4日。

直江清隆 ワークショップ司会・提題「人工物の設計と工学知」第9回日本科学技術社会論学会、東京大学、2010年8月29日。

直江清隆 シンポジウム提題「市民教育の基礎としての哲学教育に向けて」日本学術会議公開シンポジウム『哲学・倫理・宗教教育はなぜ必要か』、日本学術会議講堂、2010年11月28日

直江清隆 シンポジウム司会「K・レーヴィットの再評価：人間・歴史・自然」東北哲学会、東北大学、2011年10月24日

直江清隆 講演「技術者倫理から技術の倫理へ」中部技術士会、2011年1月16日。

直江清隆 ワークショップ司会・提題「人工物の知識論(2)」 第3回応用哲学会、千葉大学、2011年4月24日。

直江清隆 シンポジウム提題「原発リスクについてどう論じるか」応用物理学会東北支部、アエル、2011年9月23日。

直江清隆 ワークショップ司会・提題「人工物の知識論」 応用哲学会臨時大会、京都大学、2011年9月24日。

直江清隆 シンポジウム提題「倫理学(の研究者)は震災・原発事故にどう向き合えるのか、何ができ/できないのか」日本倫理学会、富山大学、2011年9月30日。

Satoshi Ogihara, 'The Contrast between Soul and Body in the Analysis of Pleasure in the *Philebus*', VIII Symposium Platonicum, The International Plato Society, Trinity College, Dublin, July 2007.

Satoshi Ogihara, 'Puzzlement over the Notion of the Happiness of a City', Joint seminar with Professors G. Ferrari and S. Kato, Tokyo Metropolitan University, March 27, 2008

Satoshi Ogihara, 'Puzzlement over the Notion of the Happiness of a City', Joint seminar with Professors G. Ferrari and S. Kato (科研「ギリシャ政治哲学の総括的研究」主催)、首都大学東京、2008年3月。

Satoshi Ogihara, 'The Epicurean Attitude to Death', International Colloquium of Ancient Philosophy and Greco-Roman Studies, Donghwas Temple, Daegu, Korea, August 2008.

Satoshi Ogihara, 'The Analogy between Legislation and Medicine in Plato's *Laws*', 科研「ギリシャ政治哲学の総括的研究」2008年度総会、2008年9月

荻原 理 死に対するエピクロスの態度、第6回多摩哲学学会大会、中央大学駿河台記念館、2008年12月7日。

Satoshi Ogihara, Greek Civilization, Aletheia University, Danshui, Taiwan, April 23, 2009.

Satoshi Ogihara, Epicurus on Life and Death, Aletheia University, Danshui, Taiwan, April 23, 2009.

Satoshi Ogihara, John McDowell on Ethics, Taiwan University, Taipei, April 24, 2009.

Satoshi Ogihara, The Brothers' Challenge to Socrates in Book 2 of Plato's *Republic*, Chinese Culture University, Taipei, April 27, 2009.

Satoshi Ogihara, False Pleasures in the *Philebus*, in Presocratics and Plato: Festschrift Symposium in Honor of Charles H. Kahn, Delphi, June 5, 2009.

Satoshi Ogihara, The Choice of Life in the Myth of Er, 科研 基盤 (B) 「古代ギリシア正義論の欧文総合研究 プラトン『国家』とその伝統」研究集会、静雲荘、箱根、2010年7月10日

Satoshi Ogihara, The Choice of Life in the Myth of Er in Plato's *Republic*, The Dublin Centre for the Study of Platonic Tradition, Trinity College Dublin, February 12, 2010.

Satoshi Ogihara, False Pleasures, B Club, the Faculty of Classics, the University of Cambridge, March 8, 2010.

Satoshi Ogihara, False Pleasures, Graduate Seminar, the Faculty of Classics, the University of Exeter, March 23, 2010.

Satoshi Ogihara, The Choice of Life in the Myth of Er, IX Symposium Platonicum, Keio University, August 6, 2010.

荻原 理 「マクダウエルの自然主義批判」、科研基盤 B 「哲学的思考の特質と、哲学教育のあり方」研究集会、2011年3月2日。

荻原 理 「『法律』第10巻 903a-905d の、神による魂の再配置の話について」第

15 回ギリシャ哲学セミナー、専修大学、2011 年 9 月 11 日。
荻原 理 司会(共同) シンポジウム 共通課題「幸福」、第 62 回日本倫理学会大会、
2011 年 10 月 2 日。

原 塑「神経倫理学の課題と展望」第一回名古屋神経倫理研究会、名古屋大学、2007
年 3 月 6 日。

原 塑「神経科学的行為理論と意図的行為」、日本科学哲学学会第 40 回大会、中央大
学、2007 年 11 月 11 日。

Hara, S. “Media Violence within the Framework of Biomedical Ethics” 第二回応用倫理
国際会議（札幌）、北海道大学、2007 年 11 月 24 日。

Hara, S. “Phenomenal Theory of Representational Content” 第 12 回国際哲学会議（ソ
ウル）2008 年 8 月 2 日

原 塑「ドイツにおける脳神経倫理」第 20 回日本生命倫理学会（福岡）、九州大学、
2008 年 11 月 30 日。

Hara, S., Yamamoto, M. 2009. The Varieties of Self. Joint Tamagawa University/Caltech
Lecture-course on EMOTION. California Institute of Technology. February 18 2009.

原 塑 神経科学リテラシーとは何か 目的と概要、シンポジウム 神経科学リテ
ラシー、東京大学、2009 年 5 月 23 日

原 塑 「自然化されたメタ倫理としての脳神経倫理学」 ワークショップ「ニュー
ーロサイエンスと規範倫理学」、哲学会第 41 回研究大会、東京大学、2009 年
10 月 31 日

原 塑 「『存在と時間』と現象学の自然化」 UTCP シンポジウム「『存在と時間』
再考：門脇俊介の哲学から出発して」、東京大学、2010 年 7 月 30 日

原 塑 パネルディスカッション「科学技術・ガバナンス・倫理」、科学技術社会
論学会シンポジウム「科学技術・ガバナンス・倫理」、京都大学、2011 年 11
月 27 日

2 教員の受賞歴（2007～2011 年度）

なし

教員による競争的資金獲得（2007～2011 年度）

（1）科学研究費補助金

- 野家 啓一 2005年～2007年 科学研究費補助金萌芽研究「ナラトロジー（物語り論）による『二人称の科学』の方法論的基礎づけ」研究代表者
- 野家 啓一 2006年～2008年 科学研究費補助金基盤研究（A）「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」研究代表者
- 野家 啓一 2007～2008年度 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「和算資料全文画像データベースの作成（第2部）」研究代表者
- 野家 啓一 2003～2005年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「<人間性の本質>観と社会的ポリシー決定」研究分担者
- 野家 啓一 2003～2005年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「Well Being(福祉・いい暮らし・幸福)概念の再検討とその実践的適用」研究分担者
- 野家 啓一 2008年度～ グローバルCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」事業推進担当者（教育・広報担当）
- 野家 啓一 2009～2011年度 科学研究費補助金基盤研究（B）「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究代表者
- 野家 啓一 2010～2012年度 科学研究費補助金基盤研究（B）「哲学的思考の特質と哲学教育のあり方」研究分担者
- 座小田 豊 2004～2005年度 科学研究費補助金基盤研究(A)『芸術終演論の持つ歴史的な文脈と現代的意味についての研究』（代表者：栗原隆）研究分担者
- 座小田 豊 2003～2005年度 科学研究費補助金基盤研究(B)(2)『Well-being(福祉・いい暮らし・幸福)概念の再検討とその実践的適用』（代表者：篠憲二）研究分担者
- 座小田 豊 2006～2007年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「「新旧論争」に顧みる進歩史観の意義と限界、並びにそれに代わりうる歴史モデルの研究」研究分担者
- 座小田 豊 2006～2008年度 科学研究費補助金基盤研究(A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」研究分担者
- 座小田 豊 2008～2010年度 科学研究費補助金基盤研究（B）「空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究」研究分担者
- 座小田 豊 2009～2011年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「ドイツ観念論における神概念の展相と主観性概念の現代的意義の研究」研究代表者
- 座小田 豊 2009～2011年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究分担者

- 直江 清隆 2003～2006年度 科学研究費補助金基盤研究(A)「経済倫理の諸伝統の比較研究」研究分担者
- 直江 清隆 2006～2007年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「設計＝デザインの哲学および倫理に関する研究」研究代表者
- 直江 清隆 2006～2007年度 科学研究費補助金基盤研究(A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」研究分担者
- 直江 清隆 2007～2010年度 科学研究費補助金基盤研究(A)「ドイツ応用倫理学の総合研究」研究分担者
- 直江 清隆 2007～2009年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「メディア哲学の構築」研究分担者
- 直江 清隆 2008～2010年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「経済倫理の新たなグローバル・スタンダードの構築」研究分担者
- 直江清隆 2009～2011年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究分担者
- 直江清隆 2010～2012年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「技術哲学における機能と規範に関する研究」研究代表者
- 直江清隆 2011～2013年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「初等・中等教育における哲学教育推進のための理論的・実践的研究」研究分担者
-
- 荻原 理 2005～2008年度 基盤(A)「西欧中世における言語哲学の展開と諸学における意義」研究分担者
- 荻原 理 2006～2008年度 基盤(A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」研究分担者
- 荻原 理 2007～2008年度 基盤(C)「エピクロス派・ストア派の勤める生の内実の研究」研究代表者
- 荻原 理 2007～2008年度 基盤(B)「ギリシャ政治哲学の総括的研究」研究分担者
- 荻原 理 2008年度 基盤(B)「古代ギリシア正義論の欧文総合研究 プラトン『国家』とその伝統」研究分担者
- 荻原 理 2009～2011年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究分担者
- 荻原 理 2010～2013年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「プラトンにおける「死後の神話」の哲学的意義の国際的研究」研究代表者

- 原 塑 2009～2011 年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究分担者
- 原 塑 2011～2013 年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「脳神経科学に基づく人格概念の自然化とその刑法学的意義」研究代表者
- 原 塑 2011～2013 年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「脳神経科学に基づく人格概念の自然化とその刑法学的意義」研究代表者
- 原 塑 2011～2016 年度 科学研究費補助金基盤研究(A)「21 世紀市民のための高次リテラシーと批判的思考力のアセスメントと育成」研究分担者

(2) その他

- 野家 啓一 2007 年～現在 科学技術振興機構・社会技術研究開発センター研究会「科学技術と知の精神文化 新しい科学技術文明の構築に向けて」研究分担者
- 直江 清隆 2005～2007 年度 日本学術振興会人文社会科学振興プロジェクト「資源配分メカニズムと公正」研究分担者
- 直江 清隆 2007 年度 21 世紀 COE「医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点」(リーダー 今井 潤薬学研究科教授) 拠点メンバー
- 直江 清隆 2008～2011 年度 東北大学 GCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」(リーダー 井上邦雄理学研究科教授) 拠点担当者
- 原 塑 玉川大学グローバル COE プログラム、平成 21 年度～「社会における心の創成」(リーダー 坂上雅道) 研究協力者。
- 原 塑 独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター、平成 18 年度～21 年度「文理横断的教科書を活用した神経科学リテラシーの向上」研究協力者。
- 原 塑 2011 年度東北大学防災科学研究拠点メンバー

教員による社会貢献 (2007～2011 年度)

- 野家 啓一 国立療養所西多賀病院倫理委員会委員 (2001 年～現在)
- 野家 啓一 東北薬科大学倫理委員会委員 (2003 年～現在)
- 野家 啓一 河北新報紙面審議会委員 (2004～2007 年)
- 野家 啓一 日本学術会議第 20 期、21 期会員 (2005 年～現在)

- 野家 啓一 日本学術会議哲学委員会委員長（2005年～現在）
- 野家 啓一 日本学術会議東北地区会議代表幹事（2005年～現在）
- 野家 啓一 宮城県図書館協議会委員（2005年～現在）
- 野家 啓一 裁判官指名諮問委員会仙台地域委員会委員（2006年～現在）
- 野家 啓一 新潟大学人文社会・教育科学系懇話会委員（2007年～現在）
- 野家 啓一 日本学術会議「基礎科学の長期展望分科会」委員（2008～2010年）
- 野家 啓一 日本学術会議「知の統合分科会」委員（2010年～ ）
- 野家 啓一 東北学院大学外部評価委員会委員（2010年度～現在）
- 野家 啓一 工学研究科特別講義「生命倫理」講師、2007年6月
- 野家 啓一 工学研究科特別講義「生命倫理」講師、2008年7月
- 野家 啓一 記念講演「科学と哲学のあいだ」、仙台一高<壱高祭>、2008年8月30日
- 野家 啓一 第3回「科学と社会」意見交換・交流会講師、NPO法人 natural science、川内萩ホール、2009年6月6日
- 野家 啓一 大学図書館職員長期研修講師、筑波大学メディアセンター、2009年7月9日
- 野家 啓一 川内萩ホールクラシックコレクション Vol.1「デュオ・リサイタル」プレトーク、2009年7月17日
- 野家 啓一 工学研究科特別講義「生命倫理」講師、2009年7月22日
- 野家 啓一 農学部・農学研究科「長谷部ゼミ」講師、2011年7月13日
-
- 座小田 豊 東北大学出版会 総務担当理事（1999年から現在）
- 座小田 豊 東北大学教育研究振興財団 事業委員会委員（2004年から2009年）
- 座小田 豊 有備館講座第8期 第5回講師「神と人間の同一性と差異について」2009年9月19日
- 座小田 豊 東北工業大学書面評価委員（2010年度）
- 座小田 豊 弘前大学大学院人文社会科学研究科外部評価委員会委員（2011年～）
-
- 直江 清隆 「臨床研究の倫理 - 被験者保護システムの展望」（日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業「医療システムと倫理」および東北大学21世紀COEプログラム医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点）コメンテーター 2006年2月4日
- 直江 清隆 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 （東北大学21世紀COE

プログラム 医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点) 第12回「研究と臨床の倫理」2006年7月4日

直江清隆 「脳神経倫理学概論」東北大学 GCOE プログラム「脳神経科学を社会へ還流する教育研究拠点」東北大学星陵キャンパス 2008年2月19日

直江 清隆 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 (東北大学 21世紀 COE プログラム 医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点) 第12回「研究と臨床の倫理」2008年6月26日

直江 清隆 東北大学大学院薬学研究科 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 第12回「研究と臨床の倫理」2009年6月18日

直江清隆 「もう一つの技術者倫理：教科書的記述から見えないこと」(社)日本技術士 東北支部 H21年度 第2回技術情報部会研修会 平成21年7月24日

直江 清隆 東北大学大学院薬学研究科 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 第12回「研究と臨床の倫理」2010年6月24日

直江 清隆 東北大学大学院薬学研究科 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 第7回「研究と臨床の倫理」2011年5月25日

直江 清隆 東北大学文学部オープンキャンパス公開講義、「私たちは知を信じることができるのか」 2011年7月27日

荻原 理 東北大学文学部オープンキャンパス公開講義、「哲学者ソクラテス」 2009年7月31日

荻原 理 朝日カルチャーセンター講師、「ギリシャ政治哲学研究——プラトン『法律』篇をめぐって——」全6回のうち2回を担当(加藤信朗、土橋茂樹とともに) 2009年8月8日、22日

原 塑 みやぎ県民大学の講師、「自由意志は幻想か? 脳神経科学からの挑戦」2011年9月15日

原 塑 気仙沼地域教育支援プロジェクト(主催:浅沼宏、東北大学大学院環境科学研究科)による気仙沼高校生徒への体験授業、体験ゼミの講師、2011年11月26日

教員による学会役員等の引き受け状況(2007~2011年度)

野家 啓一 日本哲学会会長(2003~2007年)

科学哲学研究演習

哲学課題研究

教授 座小田 豊

哲学研究演習 (全教員で共同担当)

哲学研究演習 (全教員で共同担当)

近現代哲学研究演習

近現代哲学研究演習

哲学課題研究

哲学課題研究

准教授 直江 清隆

哲学研究演習 (全教員で共同担当)

哲学研究演習 (全教員で共同担当)

哲学特論

生命環境倫理学研究演習 2 学期

近現代哲学研究演習 4 単位

東北大学大学院生命科学研究科 生命科学特論 2 回分担当

東北大学大学院薬学研究科 応用医療薬学特論 1 回分担当

哲学課題研究

准教授 荻原 理

哲学研究演習 (全教員で共同担当)

哲学研究演習 (全教員で共同担当)

哲学研究演習 (哲学・倫理学専攻の全教員で、前期・後期)

古代中世哲学研究演習 (前期・後期)

哲学特論 (後期)

哲学課題研究

准教授 原 壱

哲学研究演習 (全教員で共同担当)

哲学特論

哲学特論

哲学課題研究

2 学部授業担当

教授 野家 啓一

現代哲学概論 3-4 セメ

哲学思想演習 5-6 セメ

教授 座小田 豊

哲学思想概論（近代哲学の生成と展開）3-4 セメ

哲学演習 5-6 セメ

准教授 直江 清隆

現代哲学概論（教員3名で担当）3 セメ

現代哲学概論 3 セメ

哲学思想演習 5-6 セメ

生命環境倫理学各論 5 セメ

生命環境倫理学演習 6 セメ

東北大学薬学部 病院薬学概論 2 1 回分担当

准教授 荻原 理

哲学思想概論（古代哲学史） 3-4 セメ

哲学思想各論 6 セメ

哲学思想演習 5-6 セメ

准教授 原 塑

現代哲学概論 5 セメ 3 回分担当

哲学思想各論 5 セメ

哲学概論 6 セメ

哲学思想演習 5-6 セメ

3 共通科目・全学科目授業担当

教授 野家 啓一

歴史のなかの東北大学（全学教育科目）1,3 セメ、1 回担当

准教授 直江 清隆

科学と情報（全学教育科目） 2 セメ

准教授 荻原 理

ギリシア語／ラテン語 3-4 セメ

英語原書講読入門 2 セメ

准教授 原 塑

人文社会総論 1 セメ

基礎ゼミ 1 セメ

(2) 他大学への出講 (2007 ~ 2011 年度)

教授 座小田 豊

NHK 学園、「人間学」, 2008 年 7 月

准教授 直江 清隆

宮城学院女子大学非常勤講師 2006 ~ 2011 年度

准教授 荻原 理

東北学院大学非常勤講師 2010 年度

准教授 原 壘

玉川大学脳科学研究所特別研究員 2009 年 ~ 現在

日本女子大学大学院、「心理学特別研究 I 講義、認知神経科学 2」, 2009 年度

東京大学教養学部後期課程、「ドイツ思想テキスト分析 I」, 2009 年度

日本女子大学大学院、「心理学特別研究 I 講義、認知神経科学 2」, 2010 年度